
新世紀エヴァンゲリオン 碇ゲンドウのやり直し

細目了解

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新世紀エヴァンゲリオン 碇ゲンドウのやり直し

【Nコード】

N5498V

【作者名】

細目了解

【あらすじ】

碇ゲンドウが自分の過ちを後悔した後、ユイの力で過去に戻ります。

そして、人類補完計画を潰そうと頑張ります。ゲンドウの逆行物ですがLRSです。

今回の投稿は12月を予定しています。

ブログ ゲンドウ、後悔と旅立ち（前書き）

セカンドレイ保管委員会委員長の細目了解です。

これもセカンドレイリターンのネタが切れた時の暇つぶしみみたいな物です。

ブローグ ゲンドウ、後悔と旅立ち

「シンジ、すまなかった」

私はそう言った後、初号機つまりユイの元に言った。

「ユイ、久しぶりだな」

「ゲンドウさん、久しぶりですね」

「ユイ、私はお前に会うためにとんでもないことをしてしまった」

「ゲンドウさん、過去に戻るつもりはありませんか」

「できるのか、ユイ」

「ええ、私は初号機と一つになっているからゲンドウさんを戻すなんて簡単です」

「ありがとう、私はあの時初めて理シンジは私を求めていたんだ」

「ゲンドウさん、あとレイちゃん、りっちゃんのことを幸せにしてください」

私のことはもう忘れてください

ヒトは忘れることで生きていけるんですよ」

「ありがとう、ユイ」

私にチャンス을くれて」

「やっぱり可愛いヒト

ゲンドウさん、未来をお願いしますよ」

「わかったよ、ユイ」

ゲンドウの体は透けていき、そして消えていった。

ブローグ ゲンドウ、後悔と旅立ち（後書き）

この作品は不定期掲載としていきます。

ゲンドウが逆行してLRS

どうなるのかこれわかりませんが多分幸せになると思ってください。

第巻話 シンジとゲンドウ（前書き）

今回はシンジとゲンドウです。
セカンドインパクト記念日です。

第巻話 シンジとゲンドウ

「ここは」

ゲンドウは辺りを見渡した。どうやら司令室のようだ。

「どうした、碇」

冬月が話しかける。

「いえ、もんだ…」

冬月、今日は何月何日でしたか」

「今日は6月10日だったが」

「（レイの起動実験は終わってしまっている

レイ今までのすまなかった、人形のように育ててしまつて
シンジもだがレイお前を道具して絶対に使わない

そのためにはどうすれば、シンジと同居でもさせるか
でも、シンジは私と住みたいと思っているのか
まず、シンジの呼び出しを早めよう）」

ゲンドウは1人で30分考えていた。

「冬月先生」

「なんだ碇（冬月先生などあいつが呼ぶとわな）」

「シンジを呼び出すのを早めようと思ひまして」

「いきなり使徒と戦わせるのはどうかと」

「お前も親なのだな」

冬月は若干感心していた。

「碇、使徒が来るまで後10日あるがいつにするのだ」

「17日には呼びたいな

今から手紙でも書こう」

ゲンドウは一生懸命に誠意が伝わる手紙を書いた。
決して『来い』だけではない。

「6月17日」

「ここか、第3新東京市は」
学生服の少年がいた。

碇シンジだった。

「父さんは僕が必要だから呼んだんだような

つまり必要なくなったらまた捨てられるのかな」

やっぱり、少年は内罰的だった。

いずれ来る赤い髪の少女に突っ込まれるだろう。

「碇シンジ君だね」

黒服を来た男が近付いて来た。顔は優しそうな感じである。

「父さんの部下ですか」

「ええ、私は幸田マタキだ。

碇ゲンドウ氏は海外の出張中のためでこれない
ゲンドウ氏は済まないと謝っていたよ」

「父さんが」

シンジはゲンドウがそんな事を言うとは思わなかった。

「ゲンドウ氏は君に会うため今ここに戻っている
彼にとって君は大事なのだろうか
今までこんなことは1回もなかった
むしろ遅れることが当たり前だった」

この諜報員はゼーレや戦自、国連のスパイではないことがわかって
いる数少ない人物でゲンドウのお気に入りだった。
彼はゲンドウの変化に気づいている人物の1人だ。

「わかりました、行きましょう」

幸田とシンジはネルフ本部に向かった。

「彼がサードチルドレン」

金髪黒眉のピッチピッチの服を来た女性が話しかけて来た。

「ええ、彼が碇シンジ君です」

「私がケージまで連れて行くからあなたは戻りなさい」

「私は司令からシンジ君を司令のもとに連れて行くようにいわれています」

「まあ、わかったわ
あなたもついて来なさい」

「ケージ」

「巨大ロボット」

シンジは驚き、尻餅をついている。

「あなたにこれに乗ってほしいの」

「僕がこれに乗るの
なぜ」

「さっき司令がもつとて来たから
今ここに向かっているそうですよ」

「シンジ」

「父さん」

「シンジ、今までのすまなかった」
ゲンドウはそういい、土下座をした。

整備士は驚いている。
ゲンドウが謝っているのだ。
しかも土下座で。

「シンジ、お前をあんなところに済ませてすまなかった
これからは一緒に住もう」

「父さん、それって本当？」

「ああ、あの時はどうかしていた
ユイが死んで正常な判断ができなかった
気づくのが、10年もかかってしまった
私を許してくれ」

「父さん、ありがとう」

シンジは単純だった。

父が自分を必要にしてくれ、謝ってくれた。それに自分を求めてくれているのだ。

「父さん、僕乗るよ」

「シンジ、男に二言はないぞ」

決めたことは絶対に止めるなよ」

「わかったよ、父さん」

ゲンドウは初めて碇ユイ以来自分の事を信じてくれる人を手に入れたのだった。

第壱話 シンジとゲンドウ（後書き）

シンジと和解する事に成功しました。
次回はレイとの関係です。

ゲンドウはレイを人間に出来るのか？
お楽しみ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5498v/>

新世紀エヴァンゲリオン 碇ゲンドウのやり直し

2011年11月16日18時36分発行